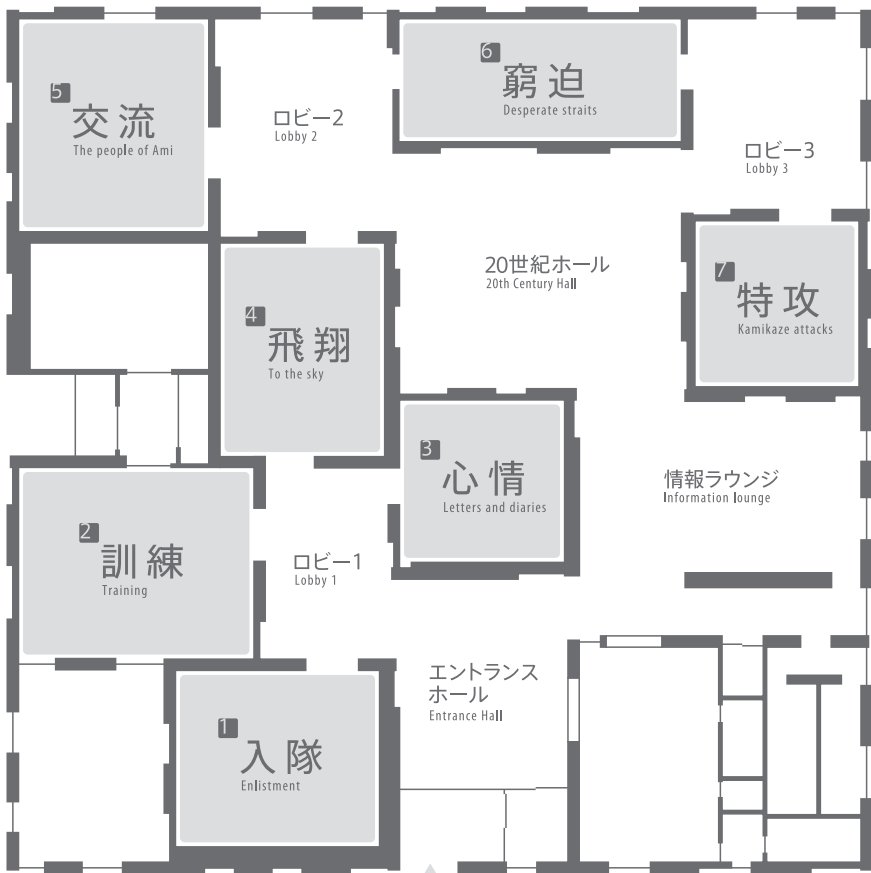


茨城県阿見町は大正時代末期に、東洋一の航空基地といわれた霞ヶ浦海軍航空隊が設置されて以来、昭和14年には海軍飛行予科練習部、いわゆる「予科練」が神奈川県横須賀から移転し、翌年には予科練教育を専門におこなう土浦海軍航空隊が設置されました。予科練教育の中心としての特別な性格を受け継ぐとともに、長く海軍の町としての歴史を歩んできた阿見町は、わが国の近代史の中でもひとときわ光芒を放つ特別な時代を過ごし、日本が経験してきた戦争と平和を考えるうえで、忘れることのできない多くの事柄をその風土と歴史の中に刻み込んでいます。このような歴史的な背景の中で、予科練を主体とした貴重な資料を保存・展示するとともに、戦史の記録を風化させることなく次の世代に継承し、命の尊さや平和の大切さを考えてもらうため「予科練平和記念館」を建設しています。

当時の少年たちの憧れであり、予科練の代名詞といわれた制服の「七つボタン」

七つのテーマと空間とで構成された展示からは今と変わらぬ少年たちの青春群像に触れることができます。そして尊い命と平和への認識を深めることができます。



「海軍飛行予科練習生」及びその制度の略称で、第一次世界大戦以降、航空機の需要が世界的に高まり、欧米列強に遅れまいとした旧海軍が、より若いうちから基礎訓練を行って熟練の搭乗員を多く育てようと、昭和5年に教育を開始しました。14才半から17才までの少年を全国から試験で選抜し、搭乗員としての基礎訓練をするもので、飛行予科練習生制度が始まってから、終戦までの15年間で約24万人が入隊し、うち約2万4千人が飛行練習生過程を経て戦地へ赴きました。なかには特別攻撃隊として出撃したのも多く、戦死者は8割の約1万9千人にのぼりました。

## 「予科練」とは



### 施設の概要

予科練平和記念館では、予科練の制服である「七つボタン」をモチーフに7つのテーマと空間から構成された常設展示室と、企画展示や講演会、研修会等、様々な事業を展開できる「20世紀ホール」、休憩や図書の閲覧を兼ねた情報提供の場としての「情報ラウンジ」などがあります。展示を含めた様々な事業を展開し、地域振興を図るための拠点として運営されます。

### アクセス

#### JR常磐線を利用

- ・JRバス 土浦駅西口から「江戸崎方面」行きのバスに乗車「阿見」下車 徒歩3分
- ・関東鉄道 土浦駅西口から「阿見中央公民館」行きのバスに乗車「阿見坂下」下車 徒歩3分

#### 自家用車を利用

- ・常磐自動車道 桜土浦ICから 国道125号バイパスを利用 約15分
- ・首都圏中央連絡自動車道 (圏央道) 牛久阿見IC・阿見東ICから それぞれ約15分

